

2022新競技規則の運用について

(高校生カテゴリーにおける国内での運用)

2022年10月17日

中国高体連ハンドボール専門部

国際ハンドボール連盟（IHF）競技規則審判委員会は、2022年3月1日に新競技規則を発表しました。IHFでは、この新競技規則を2022年7月1日より施行しています。大陸連盟（AHF）および国内大会においては主催者によりその運用を定めるとされております。主な変更は以下の4つです。

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
- 2 ボールサイズ（外周）について、松やにの使用の有無で分類
- 3 スローオフエリアについて
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更

決定事項

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
2022年7月1日より施行、令和4年度全国高校総体でも適用したことと安全面への配慮から、都道府県大会及びブロック大会においても適用。
- 2 ボールサイズ（外周）について、松やにの使用の有無で分類
ボールサイズは、松やにを使用しないために作られた新仕様のボールは使用しない。
- 3 スローオフエリア
令和4年度全国高校総体終了後より施行。
(第46回全国高校選抜大会…スローオフエリアを使用する)
上記のことより、都道府県大会及びブロック大会においても適用。
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更
令和4年度全国高校総体終了後より施行。
(第46回全国高校選抜大会…パッシブプレー予告後のパスは最大4回とする)
上記のことより、都道府県大会及びブロック大会においても適用。

参考資料

○ジャパンオープントーナメント ○国民体育大会

- ・ゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則を適用する
- ・ボールサイズ（外周）について分類する
- ・スローオフエリアは使用しない
- ・パッシブプレー予告後、パスの最大回数を6回とする

○日本選手権（男子大会・女子大会）

- ・ゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則を適用する
- ・ボールサイズ（外周）について分類する
- ・スローオフエリアを使用する
- ・パッシブプレー予告後、パスの最大回数を4回とする

※（公財）日本ハンドボール協会HP

競技者関係者向け→ 競技・審判本部より新競技規則について掲載